

自己評価報告書

平成23年5月15日現在

機関番号：35503

研究種目：基盤研究B（海外）

研究期間：2008～2011年度

課題番号：20401037

研究課題名（和文）先端技術を用いた中国内蒙古・新疆北部における漢魏都城・陵墓の総合的研究

研究課題名（英文）A Synthetic Research of Cities and Tumulus of Han and Wei Period at Neimenggu and Northern Xinjiang China based on High Technology

研究代表者 黄 晓芬 (HUANG XIAOFEN)

東亜大学・人間科学部・教授

研究者番号：20330722

研究分野：考古学，文化交流史

科研費の分科・細目：人文学B 考古学

キーワード：都市と陵墓，中央宮都と郡県城址，方位と景観，秦直道の探求，東西文化交流，GPS・GIS解析，人骨DNA分析と年代測定

1. 研究計画の概要

漢魏時代は、中原国家と北方遊牧民・西方農耕民の社会との交渉が濃密となり、ユーラシア大陸の東西交流が著しく活発化した時期である。秦漢時代の王朝文化が開花、成熟する一方、内蒙古・新疆北部に活躍された遊牧民は、ヨーロッパ東のステップ地帯を原郷とする青銅器文化をもち、シルクロードを通じてオアシス都市国家が栄え、中国北部・朝鮮半島・日本列島にまで少なからぬ影響を及ぼしている。本研究は華北地域における漢魏時代の都城(市)・道路・陵墓に焦点をあて、対象地域の遺跡踏査とGPS測量を行い、帝国都城と地方郡県城址の造営プラン、都市と墳墓の方位・景観の特徴を把握しつつ、中国都市文明像を具体的に描きだすと共に、ユーラシア大陸の東西交流の様相やその推移を実証的に解き明かそうとする。

2. 研究の進捗状況

本課題研究は、漢魏期の都地域(陝西省、河南省)と北方国境線の内蒙古や華北地方(北京市、河北省、山東省など)王国・郡県城址の実地調査とGPS測量を計画通りに行っている。GPS・GIS解析を用いて漢魏時代の都城(市)、道路、陵墓の位置情報を正確に取得することができた。それによって、調査対象地域の都市と陵墓の方位と景観を把握し、その復元研究をも試みた。これまで3年間の研究活動を通して得られた主な成果は、以下にまとめられる。

(1) 戦国秦の都市・陵墓・道路・長城遺跡：

- ①戦国・趙長城遺跡の踏査とGPS測量、
- ②山東省臨淄市・戦国齊の国都と王墓、
- ③秦の始皇帝陵園城址と陵園、道路、
- ④始皇帝より創建された南北幹線道路であ

る秦直道(陝西省-内蒙古包頭)全ルートとGPS調査と富県直道の発掘参加を実施した。

(2) 漢魏都城と陵墓の調査と測量：

- ①河南省・漢魏洛陽城と北邙山の漢魏帝王

陵墓、同安陽市曹操墓の現場調査とGPS測量、

②漢魏期の諸侯王都・郡県城址と墳墓—内蒙古包頭市麻池の秦漢郡県城址、同フフ市・代郡城(塔布陀羅亥)と王墓、同呼林格爾・漢魏盛樂古城、同托克托県雲中古城；陝西省榆林白城子、同大夏統万城；北京・河北省にある漢魏郡県城址；山東省済南市漢東平陵城と王墓の実地踏査とGPS測量、

③チベット(郎県列山、加查県邦達、拉孜県查木欽、澤当)で吐蕃王墓の分布調査とGPS測量を初めて実施した。

(3) 古代ローマ都城と墳墓・道路・植民都市の調査と測量：

- ①古代ローマの都城・霊廟・アッピア街道、
- ②ガリア・イベリア半島のローマ植民都市、
- ③イギリスのローマン・ロードとローマ北部長城・城砦の実地調査とGPS測量を行い、東西文明の比較研究を展開する基礎資料を蓄積した。

(4) 先進技術を用いた遺跡の調査と研究：

- ①GPS・GIS解析：新型GPS機器の使用と後処理補正によって測位誤差は約1m前後、この測点計算より漢魏都市と陵墓の構造プランと方位角を求め、GISに表示・図化することができた、
- ②秦直道の出土人骨DNA分析(研究協力者への依頼分析)によって人種と年代測定を行い、秦直道の使用と廃棄年代を判定する科学的な証拠となった。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。その理由は、主に下記の通り：

- (1)中国側の研究協力者と緊密に協力し合い、対象地域の国際共同調査が順調に展開し、漢魏王朝の北方都市と陵墓遺跡(小計6省市32カ所)のGPS測量調査が効率的で行い、中国古代都市の空間配置や立地景観と方位を正確に把握することができた。漢魏期の中央宮都と地方郡県制度の比較研究、並びに東西文明における都市と陵墓、道路と辺境長城の比較研究に対して重要な検証資料を系統的に集成す

ようになってきた。それによって、漢魏時代の中央宮都と陵墓建築は帝国理念に基づき、高度な設計・測量技術を駆使して巨大な記念的建造物をすべて真北方位を求めて建てられた。それに対して、地方の郡県都市建設は、北方位を重視しながら、それぞれ地域色が見られるのは判明したのである。

(2) **秦直道の真相究明**：計画時の秦直道ルート上のGPS調査を実施した際、陝西省富県遺跡の発掘調査、地理情報分析に加え、出土人骨DNA分析によってルート検証のみならず、道路工法や作道技術の考察、使用と廃棄年代の検証ができ、中国歴史考古学上に1つ未開拓の領域踏み入り、秦漢道路の真相究明に実証的な展開を果した。それによって西洋のローマン・ロードとの比較研究の土台になり、東西交流史研究への展開も進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

本課題研究の計画通り、引き続き中国側の研究協力者と緊密に連携・協議しあい、国際共同調査を通して掲げた調査と研究の目標達成を目指していきたい。

(1) **漢魏時代の都市・陵墓、道路、北方長城遺跡の継続調査と研究**：内蒙古西部の漢魏時代の郡県城址と墳墓；河北省・山東省各地の補足調査や遼寧省など東北地方の漢魏郡県城址の実地調査とGPS測量を行う。これまでの実地調査でより重要性が判明した遺跡については、高精度（誤差数cm以内）の位置情報を取得する予定で、また、能率的にデータを取得するためジオタグ付きの写真撮影を利用するほか、出土遺物や遺跡の科学分析をも積極的に導入し、実証的な研究を推進していこうと考える。

(2) **新疆北部遺跡調査の再開**：09-10年新疆に生じた動乱規制で、当初新疆の現地調査予定を延期したが、現地の研究協力者と協議し現地情勢の安定を取り戻すしだい、計画調査を再開する。

(3) **チベット・吐蕃王国の探求**：6～7世紀頃、チベット高原に誕生した吐蕃王国は東西文化交流の要の1つである。新疆調査中止の代行実施案として2010年夏、チベット文物研究所の協力を得て吐蕃王墓の分布調査を実施し、吐蕃王国を知る貴重な資料を初めて取得した。古墳群ごとに計画的な調査を展開し、東西文化交流史の実態を実証的に推進したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計4件)

- ① 黄 晓芬・張在明「秦直道の研究」『日本考古学』(日本考古学協会) 第31号, 1-19 pp. 2011年, 査読有
- ② 吉井秀夫「百濟墓制研究の新潮流」『季刊考古学』第113号, 66-69 pp. 2011年, 査読無
- ③ 黄 晓芬「漢帝都長安の都市計画と造営理念」『古代文化』(古代文化協会) 第61巻2, 43-58pp. 2009年, 査読有
- ④ 宇野隆夫「GISを基盤とする考古・歴史民俗・環境情報の高度連携研究」『論壇 人間文化』第3号, 136-147pp. 2008年, 査読無

〔学会発表〕 (計6件)

- ① 黄 晓芬「漢代帝陵の空間配置と設計プランの

復元」学習院大学・東洋史研究会『衛星データと中国古代陵墓の世界』2011. 2. 24-25日

- ② 黄 晓芬「秦漢墓と地中海葬制の比較」中国社会科学院『漢文化研究会』国際大会2010. 9. 17-19日

- ③ 鶴間和幸, 黄 晓芬, 惠多谷, 松村「利用衛星データ復元秦始皇陵及自然景觀」『秦俑学会』第七届大会, 2009. 10. 16-17日(西安市)

- ④ a. 黄 晓芬「華南・ベトナム北部における漢墓と郡県城址の調査と認識」; b. 黄晓芬・張在明「秦直道の調査と研究」中国社会科学院『漢文化研究会』国際大会2008. 12. 3-6日(広州市)

- ⑤ 黄 晓芬「GPS・GISを用いた秦漢都市、陵墓、直道の調査と研究」京都大学『考古学談話会』H20年度大会, 2008. 11. 15日(京都市)

- ⑥ 黄 晓芬「漢墓与漢文化の伝播」モンゴル社科院・国際研究集会『草原帝国—匈奴の研究』2008. 5. 27-29日(ウランバートル市)

〔図書〕 (計7件)

- ① 宇野隆夫(編著)『ユーラシア古代都市集落の歴史空間を読む』総201頁, 2010年, 勉誠出版(東京)

- ② 宇野隆夫, 黄 晓芬, 宮原健吾, 白井正「中国漢帝国首都圏の歴史空間」『ユーラシア古代都市集落の歴史空間を読む』65-74 pp. 2010年, 勉誠出版(東京)

- ③ 中国社科院編『漢代文明—国際研討会論文集』総389頁, 黄 晓芬「漢墓与漢文化的伝播」331-345 pp. 2009, 北京燕山出版社(北京)

- ④ 宇野隆夫(編著)「Changing Perception of Japan in South Asia in the New Asian Era: The State of Japanese Studies in India and Other SAARC Countries」1-381pp. 2008, International Research Center For Japanese Studies(京都)

- ⑤ 中国社科院考古研究所編『漢長安城学術調査研究五十周年記念』総376頁, 黄 晓芬「漢帝都長安の布局形制考」190-205pp. 2008, 中国科学出版社(北京市)

- ⑥ モンゴル社科院・国家博物館編『草原帝国—匈奴研究』総410頁, 黄 晓芬「漢墓と匈奴文化の研究」223-267pp. 2008年, モンゴル社会科学院出版(ウランバートル)

- ⑦ 『王権と都市』総366頁, 宇野隆夫「インダス文明の都市と王権」143-169pp. 2008, 思文閣出版(東京)

〔その他〕

ホームページ

<http://homepage.mac.com/tuno/Fuang/Menu64.html>